

## A02a 次世代地上大型望遠鏡計画・海外の動向とまとめ

本原顕太郎 (東大理)

現在、1990年代までに計画されてきた世界の8-10mクラスの地上大型望遠鏡計画はその大部分の建設は一段落しており、それに伴って次世代の超大型地上望遠鏡の具体的な検討が各国で活発に開始されている。特に、Caltechとカリフォルニア大学が中心となって推進している口径30mのCELT(California Extremely Large Telescope)計画は2010年ファーストライトを目標にプロジェクトが本格的に開始されようとしており、予算の目処もついた模様である。この他にもESOが計画している口径100mのOWL、NOAOの口径30mのGSMTなど口径30メートルを越える計画がいくつもある。

本発表ではこのような海外の大型計画の現状と今後の動向を報告すると共に、次世代の超大口径望遠鏡の技術的側面もレビューする。